

【申請団体一覧】

・公募期間：11月20日～12月22日

・申請団体数：16団体（申請順にて掲載）

No.	団体名	所在地	事業名	申請事業概要
1	一般社団法人山守学舎	関東地区（主に埼玉県）	未来へつなぐ共創の森づくり	自伐型林業を学び拠点作りを実践していこうと考える者に、必要となる資格取得をはじめ技術向上に向けた講習の実施し、山や機械の知識修得させ、さらに経営や仲間づくり、企業とのつながり、半林半刈による自伐型林業に親和性の高い職との出会いと訓練の場を提供する。同時に自伐型林業の指導者養成も行う。また、自伐型林業全般（装備・機材・技術・施業地・施業方法など）に関わる困りごとを解決するWEBサイトの開設。山や木、水源の困りごととして相続や管理の問題、涵養性向上への取り組み、激甚化する災害への備え、荒れた山の対策など相談できる環境（他職種による）を整えた「山の駆け込み相談所」の設置。山が必要でない人と必要な人を結ぶ「山林バンク」プラスWEB版の創設。林業の縮小が社会に与える影響の大きさの実態に警笛を鳴らす活動と山林や施業の危機管理の推進、そして過去・現在・未来へ「100年紡ぐ森」の意味を研修生・企業・自治体・教育機関・関係者等で共に考えるワークショップを研修生の地元や協力団体の地域にて年6回開催し、未来に好循環を生み出す「100年の森バトン構想」を作り上げ、2028年3月までに関東地域3箇所にてフォーラムで実施し発表する。
2	九州林業塾	九州地区	なし	令和元年発足した九州林業塾は、九州での自伐型林業の推進を掲げ支援を受けながら活動し成果をあげてきたと自負している。一方で、その広がりには十分でなく解決すべき課題も多々ある。そこで、当該事業において、九州林業塾の一番の課題である『地域で生き自立した自伐型林業者を育てる』をテーマにした活動を行う。重点活動地域を自伐型林業推進する新たな団体が組織された球磨地方を中心とする熊本県及び県下各地で広がりを見せつつある大分県とする。九州林業塾は、両県での活動中の団体・個人はもとより当事業での研修等開催を開催を機に新たに結成する団体・個人を上記テーマの達成が出来るよう全力でサポートする。主なサポート内容は以下の通りである。 (1) 山林や地域の情報の把握 地域リーダーに「地域活動員」になってもらい長期的な協力をもとめる。 (2) モデル林づくり 既存の技術モデル林に加え、新たに森林学習・収益化・災害復興体験等を提供できるモデル林づくりを行う。 (3) 地域のキーマンの把握と整理 地域活動員の活用によりキーマンの把握と整理活用につとめる。 (4) 広域での支援体制の構築 これまでの取り組みで熊本県、大分県共々各種団体と連携してきたが、一層連携を推進する。 (5) 自治体との連携、関係性づくり 特に大きな災害を被った熊本県球磨地方市町村との連携を重点に、他市町村との連携も進める。
3	有機林業研究会 球磨川	熊本県球磨川流域	7世代先の森づくり	本事業は、2020年7月球磨川豪雨災害をきっかけとするものです。災害に強い山々、壊れない道づくりの知恵を7世代先まで伝えようとするもので、球磨川流域の多くの人に、知ってもらうための事業でもあります。モデルとなる作業道を、流域の源流域に作り、未来のニーズに合う森林と、林業者の育成にも役立つようなモデル林作りを目指します。暮らしの延長線上にある山との関わりが見えなくなった今、消費者として改めて考えてもらえる事業になることを目指します。生産者や生産された木材を消費者が選択し、支える仕組みへと発展することを期待し、製品やサービスを研究して地域や山への還元へとつなげることが目的です。3年間で行う具体的な事業内容は、モデルとなる作業道を整備し、素材を生産し、加工し、活動拠点の一部とする水車小屋を建設する予定です。事業後も継続して人の出入りが絶えず、情報が集まり、雇用も生まれる地域密着型の学びの場としての活用を予定しています。

4	朝来市自伐型林業推進協議会	兵庫県朝来市及び周辺地域	なし	<p>(草の根活動支援事業 自伐型林業に取り組みたい個人やグループを対象に、活動の立ち上げ・継続の支援を行う。具体的には下記のとおり。</p> <p>①活動地の確保支援: 自伐型林業の適地を調査し、取り組み者の技術レベルに応じた活動地の選定、山主との交渉支援を行う。</p> <p>②スキルアップ支援: 伐倒・造材や作業道開設等の必要な技術について、取り組み者のニーズに応じて内外の講師による少人数・集中的な実地研修により、技術レベルの向上を支援する。</p> <p>③活動継続支援: 各種の補助事業等の支援制度について、技術レベルや取り組み者の目指す方向性に応じた最適な選択を助言しサポートする。</p> <p>④交流活動: 市域の範囲を超えて、自伐型林業に取り組み主体同士の交流を図り、情報交換や意識の向上を図る。</p> <p>⑤木材の地域内サプライチェーンの構築: 造材時に発生する端材を回収・加工(薪や小さな1枚板のテーブル)・販売(市内キャンプ場内や道の駅・温泉施設など)することで、山林作業が難しい時期(7.8月1.2月)の仕事を創出するとともに、地域内の製材所やキャンプ場との連携により、製材技術の継承と市内でのサプライチェーン構築に取り組む。</p>
5	ふくちやま自伐型林業推進協会	福知山市、京都府	山と人をつなぐFUZA (FUkuchiyamaZibat suAssociates)	<p>従来われわれは、市の施策に歩調を合わせて設立され、市に対して要望を伝え、市がそれに応じるというかたちで活動を進めてきた。しかし今後、自伐型林業のさらなる推進を市に要望したり、市の施策に期待することにとどまらず、実践者としての経験を活かしてみずから推進活動を行うことによって、市の施策だけでは手の届かない人々の要求の実現を目指す。主な直接的な対象者は、福知山市、京都府、山林所有者と自伐型林業実践者、自伐型林業との連携を望む市内外の団体や企業である。</p>
6	日本山林再生株式会社	栃木県茨城県	栃木県を中心とした自伐型林業者のサポート推進	<p>自伐型に限らず、地域林業者をサポートするためには以下の課題解決が必要である。</p> <p>①施業地がない②重機がない③売先がない④補助金の情報がない⑤安全講習が少ない⑥横の関係がない</p> <p>実際、我々やその周辺でも、大手林業会社から独立して自伐型を始めようとする際、上記の問題により、挫折もしくは活動後の意見の隔たりにより解散になってしまう。それに対しての我々のアプローチは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林班ごとの集約によって崩れにくい道づくりの素地づくり ・山林施業したいが面積要件で補助が取れない人には、当社の俗人の経営計画に入れることで補助金取得支援 ・同じ事業体、同じ親方の下にいと考え方の固定化・技術の伸び悩みが起きるので、手の足りない親方に空いている人員を送り込むなど人材マッチング <p>具体的な活動として、県の伐採単価に我々の補助金の半額を業者に渡して、1.4万円/m²程度の単価感で仕事を発注する。それにより安全性が進み細かい道の作り方の指示ができるようになる。それ以外にも、林業の講習や林業大学の現役生に対し、里山活動をしながら伐採の安全性、各事業体からほかの事業体の人材交流、親方同士の技術交流などを行っている。</p> <p>これらの活動を通じて、足りないのが重機と道づくりを中心とした教育であり、今までやってきたことを伸ばし発信していきたいと考えている。</p>

7	たんば山守サポート	兵庫県丹波地域 (主に丹波篠山市内)	たんば山守サポート事業	<p>丹波地域は、都市部からほど近く、丹波黒枝豆や丹波栗などの農産物、伝統的な街並みなどが有名な地域であるが、森林については荒廃が進み、土砂崩れが頻発したり、獣害被害が深刻となるなど問題となっている。自伐型林業を推進することで、市内で展開されている様々なビジネスにおいて、魅力的な空間として活用を促すなど、森林への投資を促し、継続的な利活用を支援したい。</p> <p>これまで、自伐型林業の推進に関しては、ボランティアで行っていたが、市役所の担当課とのやり取りは、新しいことに対する抵抗感が強く、実行性を担保するための意見調整が困難を極め、深夜休日問わず対応にあたる必要があった。本年はすでに、フォーラムの開催、モデル林の整備、山の集約化を市役所が仲介するしくみづくりなどを実現することができ、現在は、来年度以降の予算や推進計画について話し合っているところであるが、今後、市役所とのカウンターパートとして事務局費用を確保し、林業者や山林所有者への安定的な支援を行えるように持続可能な体制構築が必要となる。本助成金を活用した事業展開が可能であれば、山の集約化事業について、従来の受け身の姿勢ではなく、モデル林を活用した自伐型林業の解説ツアーや山の集約化についての説明会、林業者との契約までの伴走支援等の能動的な取組を実施し、山林の活用を含めて、助成終了後にも継続的な支援ができる体制を構築する。</p>
8	ヤマツクルアグロフォレストリー	和歌山県紀北エリア (和歌山市、海南市、橋本市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町)	紀北エリアの自伐型林業のハブ機能形成プロジェクト	<p>当会は設立初年度の任意団体であるが、和歌山県で最初に自伐型林業が導入された紀美野町の団体として、紀北エリア全体に自伐型林業を普及していく意義を実感している。</p> <p>そこで、紀北エリアで自伐型林業を営む/営もうとする者を継続的に支援するため、下記のような中間支援に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自伐型林業を推進するための自治体への政策提言と市民へのPR ・木材・林産物の集積所(木の駅)の設置 ・自伐型林業者にリソース(補助金・交付金・助成金等)情報と事務的な支援を提供できる人材育成 <p>また、自伐型林業によって生計を立てる一モデルを確立するため、ヤマツクル・アグロフォレストリーとして下記の事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業・店舗等への木材・林産物の出荷 ・地元店舗・宿泊施設等と連携して持続的に寄付を得るための「きみの里山基金」の設立とファンドレイズ
9	STABLEBASE (ステーブルベース)	岐阜県岐阜市	自伐型林業の技術で開設する保護ネコキャンプ場 岐阜県での自伐補助金確立と自伐人口の創出	<p>岐阜県岐阜市太郎丸770番地にて、自伐型林業の技術を活用した保護ネコキャンプ場を開設します。現存する、古民家を改装した保護ネコシェルターを拠点に、裏山の整備を通じて里山環境を再生し、保護ネコとの触れ合いを楽しむ新しいアウトドア体験を提供します。整備には自伐型林業の手法を導入し、里山管理の基礎を学べるチェーンソー研修や道づくり研修を定期開催。フォーラムも行う事で、自伐型林業スキルの習得に加え、整備後のフィールドの活用例として、動物愛護を融合した新たなビジネスモデルを提示します。自然環境保護と動物福祉を両立させ、地域振興を図る持続可能な事業として、全国展開を目指します。また、このモデルを通じて地域の里山管理や自然と共生するライフスタイルを提案し、里山関係人口の増加を促進。環境保護、動物福祉、地域振興を一体化した事業で、持続可能な未来を創造します。</p>

10	ちちぶフォレスト テーブル	埼玉県秩父市及び 周辺4町(秩父市、 横瀬 町、皆野町、長瀬 町、小鹿野町)	ちちぶ森のしごとイ ンキュベーション事 業	<p>社会課題欄に記述する①～⑥の解決に向け、秩父地域において以下の事業を実施する。</p> <p>1: 当団体によるモデル地域の集約化(森林所有者との同意取り付け、境界確認) →課題①へ対応 ・秩父市太田地域の里山林約50ha(主に広葉樹でしいたけ楢木や薪の生産林)をモデル団地として設定。 ・市の補助事業(助成事業外)にて実施。 ・すでに当該地域のとりまとめ役割的森林所有者も本事業に協力的。</p> <p>2: 会員に対する施業地の施業委託 →課題②へ対応 ・事業1の施業地を区割りし会員へ実践の場として提供。</p> <p>3: バックホウ等重機の会員への貸付 →課題③へ対応 ・バックホウ・林内作業車を購入し会員への貸付をおこなう。</p> <p>4: 重機のレンタル代理 →課題④へ対応 ・与信等で長期レンタルが困難な会員に対して、当団体が代理で長期借り受けをおこなう。</p> <p>5: 当団体の重機置場として借り受ける敷地を活用した副業支援 →課題⑤へ対応 ・重機置場の空きスペースを活用し、集客可能な状態や作業スペースとして段階的に整備。会員の副業活動に活用する準備を行う。</p> <p>6: 自伐型林業体験研修修了者等に向けた施業研修機会の提供 →課題②へ対応 ・研修修了者は安全作業への不安や実践機会が限られているため、会員指導のもと施業研修を実施する機会を設ける。</p> <p>7: 当団体の体制整備 →課題⑥へ対応 ・行政の指導を仰ぎつつ、業務委託やレンタルに伴う利用規約の整備。団体活動としての体制強化と会員募集。活動拠点の敷地整備をおこなう。</p>
11	一般財団法人くま もとSDGs推進財 団	熊本県域	地域森林の再生従 事者育成と持続可 能な林業の支援 ネットワークづくり	<p>事業1) 自伐型林業のモデル林づくり 県南ブロックの熊本県八代市公有林や私有林、県央と県北ブロックでモデル林業者育成研修を実施し、モデル林づくりを進める。住民や関係者の見学会・学習会、自伐型林業普及員の研修にも活用する。</p> <p>事業2) モデル林業者の育成研修 自伐型林業を担う人材の育成。重機操作など技術の習得、ルート選定力、地図読解力、山の地質・地形などを判読力も備え、後継者指導もできる人材を育成する。</p> <p>事業3) 自伐型林業普及員の育成 自伐型林業の普及活動を行う人材の育成。地域の山林に関心を持ち、自伐型林業の基礎知識に加えて森林政策も学び、自伐林の案内役や、補助金・助成金等資金調達の助言、山主からの持山に関する相談を受け施業希望者と結びつける人材の育成を目指す。</p> <p>事業4) 一般市民を対象とした自伐型林業の普及 森に関心を持ち森を頻りに訪れる市民を育てる。自伐型林業に関する講演会や現場見学会を実施し、森林再生の重要性を認識し、地域林の消費に積極的に関わる消費者育成にもつなげる。シカ防護柵設置体験会などで森林再生のボランティア活動にも関わってもらう。</p> <p>事業5) 関係機関・団体との連携 モデル林業者の施業継続に留まらず、後続の自伐型林業者が安定して収入を得ることができる「持続的地域森林管理体制」づくりに、山主・自治体・議会・土業者・研究機関(大学等)等と連携して取り組む。</p>

16	株式会社 WOODLIFE	鹿児島県出水市および近接する自治体	自伐型林業を契機とした自立自走の地域づくり・人づくり事業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たな機械・器具工具を導入することにより、安全で効率的な施業ができるよう装備し、年間あたりの施業地と団体として管理可能な面積を集積計画に基づき拡大します。 2. 出水市から受託していたため市内からの参加に限定されていた研修会について、近接地域の市外からの参加を受け入れる枠組みにすることで、エリア一体から就業意欲のある人材確保・育成に取り組みます。 3. 木材の新たな利活用手段について試行検証を行い、エリアにおける林業の価値向上に寄与できる取組を事業化します。 4. 一社ensokuと連携した子ども向けの森林体験プログラムについて、家庭に持ち帰れる学習ツールを作成することにより、保護者を含めて森林に親しみ学べる機会への発展を目指します。 5. 意欲ある若手農林水産業者と交流・連携する場や機会を創出し、地域でつながり一次産業全体として事業の質向上に向けた機運づくりを行います。 6. 鹿児島自伐協と連携し、エリアとして林業新規参入者・参入希望者を支援できる事務局・窓口体制の構築と拠点施設の整備を行います。 7. 行政の自伐型林業への理解が進み支援制度の拡充にもつながるよう、広報への定期掲載をきっかけに担当部署等との連携・コミュニケーションを強化します。
----	------------------	-------------------	------------------------------	--